

「季刊わたぼうし」 第24号

発行者:わたぼうし連絡会  
発行日:1991年(平成3年)9月1日 '91 春号

第24号のテーマ 「障害者と自動販売機 II」

秋風に母の声がある

サトウハチロウ

秋風に母の声がある

秋のひざしの中に母の目がある

秋の雨に母のつぶやきがある

秋の窓に母の影がある

わたしは

秋の中に母の姿を描く

この機関紙は障害のある人、ないひとが自由にそれぞれの考えを出しあい、主義、主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

## テーマ 《障害者と自動販売機Ⅱ》

今回は前回、大好評でした自動販売機を障害者が利用するときの問題点を再び企画しました。

### 車いすと自動販売機 養護学校教諭

編集委員の方から、自動販売機の原稿を依頼され、自動販売機について考えてみた。自動販売機といってもいろいろなものがあり、身近なところでは、ジュース、アイスクリーム、たばこ、切符などが考えられる。

障害を持った人、特に車いすの人にとって自動販売機は便利にできているのだろうか？欲しいときにいつでも買えるのが自動販売機であるが、車いすの人にとっては、自動販売機は使いにくいようである。

例えば、ジュースの自動販売機について考えてみよう。メジャーを持っていくつか測定してみた。ジュースの取り出し口は地上から50cm、車いすなら座っていても取り出せる。硬貨投入口は地上から1m、手を伸ばせばなんとか届く高さである。ジュースの選択ボタンは2段のものだと80cm～140cm、下のボタンには届くが、上のボタンには届かない。何か棒のようなもので押すしかない。小さな子供も届かないであろう。これも大人を基準に自動販売機が作られているからで、身長160cmぐらいの大人にとっては便利な自動販売機ということで作られたからであろう。

車いすの人にも便利な自動販売機。切符の自動販売機で、子供のボタンは、大人のボタンの下にあって子供でも届くようになっていたと思われる。車いすの人にも子供にも届く高さのボタンがある自動販売機。病院のエレベーターには、車いす専用のボタンがある。

ジュースなどの自動販売機のボタンも、車いす用のボタンをつけることはできないものかと思う。

### 自動券売機 地域住民・元養護学校教員

通勤は毎日JR電車を利用しています。駅の券売機をときどき使ったり、使っているのを見ながら、障害者の立場になって気付いたことを延べてみます。

まず、券売機を障害者が利用して不自由と思われるのは、①券売機の高さ、②金の投入口、③行き先と金額の結び付き、④押しボタンの4つです。

①券売機の高さ、車いすに乗った人の目の高さが一番大切な表示がくるように。今の券売機は高すぎるために表示が読みにくいのです。

②金の投入口、コインを縦に押し込むようになっていますが、皿状のところに乗せると、滑って入っていくようにしたらよいです。

③行き先と金額の結び付き、行き先を押しますと、金額が表示されるようにしたらよいです。その金額を入れますと、釣りと乗車券が出て来るようにします。

④押しボタン、押しボタンの表面に、行き先を点字でも表示できる広さが必要です。今のは小さすぎて押しにくいです。ボタン盤は直より平らがよいです。

上記①～④の条件を満たした、障害者専用の専用機を一台設置しておくといよいです。混雑しているときは障害者はよけいに利用しにくくなります。シルバーシートや車いす専用のトイレのように、特定して設置したらよいです。

## 自動販売機

## パソコン通信原稿・ティーズメカさんより

仕事柄というか、関心の目の向きから、どうしても技術的な面の話になってしまいますが、参考になればと思って書きます。

身体に不自由のある人にも便利な自動販売機といっても、その不自由の具合によりいろいろな対応が考えられます。例えば目の不自由な人のためにアナウンス機能を付けるとか、指先の不自由な人のために投げ込み式のコイン投入口にする、操作する部分や品物の出口を上下左右に動かせるようにする、声で操作するなど。

現代の技術でできそうなものばかりです。不特定多数の音声認識は無理ですが、アナウンス＝音声合成やコインの自動整列、識別、操作口の可動、などは造作もないことでしょう。

こういった便利な機械を普及させる上での問題のひとつはコストの面でしょう。機能を追加すれば当然機械の値段が高くなり、結局扱う製品の値段にはねかえってしまいます。しかし、これは数の問題でもあります。たくさん作れば量産効果があるし、安く作るための開発費を増やすことでもできる……。これが効きます……。コストアップを小幅に抑えることは困難とは言えないでしょう。

もうひとつ、どんな機能を付けたら良いのか、今のどこが具合悪いのか、(開発している)健常者の意識に上らないのが問題です。使いにくければ、もっと声を大にして、皆に聞こえるよう提案する必要がありますね。

その意味でこの「わたぼうし」活動など有効だと思います。障害者の方、どんどん投稿しましょう！作文の善し悪しなど関係ないです。私のこの稚文がその良い(悪い?)代表になります!?

## 障害者と自動販売機に思う

## 地域住民・(農業)

自動販売機が街中に氾濫している今日ですが、よく考えてみれば、障害のある方のために配慮がなされているものは、私は今まで見たことがないと思います。

障害のある方にとっては、どの自動販売機も確かに使いづらく、改善が必要だと思います。それでは、メーカーなどにアピールをして、利用しやすいように改善してもらえば、それで済むかという、私は決してそれだけでは済まないと思うのです。

今日のように物が氾濫し、また生活が便利になればなるほど、そこには、人と人とのふれあいのない、冷たい社会になっていくように思えてならないのです。

自動販売機を改善するよりも、もし障害のある方が自動販売機の前で困っておられるの

を見かけたら、快く手助けしてあげる。そんな対話のある、心のふれあいのある社会に改善していくことを考えることこそ一番大切ではないかと思います。

それは「障害者と健常者とのかかわり」ということだけではなく、人間と人間とのかかわりにおいて、もっともっと心のふれあいのある、温かい社会でありたいと思うのです。

決して理想論ではなく、私も含めて一人一人ができるところから、気づいたところから始めればよいと思います。

人は心と心のふれあいの中でこそ、生きる意義や喜びを見いだせるのではないのでしょうか。

### 「障害者と自動販売機」のアンケートより

これは「季刊わたぼうし」第20号に同封しましたアンケートに寄せられた皆様のご意見です。

★何げなく使用している自動販売機への見方が変わりました。また、人間として自己中心的な世の中になったと現代を感じています。この機関紙をぜひ自動販売機製造元へ送付してあげてください。(健常者20代・女)

★私たちが普段何げなく利用している自販機が障害者の方にとっては、なんて不都合なことが多いのだろうとつくづく感じました。確かに、自販機の前に自転車が止まっていたり、溝があったり、お金の投入口が狭い以前の問題で私たちができる最低のマナーから心がけていかなければならないと改めて感じました。(健常者20代・女)

★自動販売機をよく利用しますが、障害者の立場で利用したことはありませんでした。障害者も使いやすいように工夫すれば、もっと自由に利用できるのにと感じました。(健常者20代・男)

★私たちが何げなく使用している自動販売機にこんなに多くの問題点があることに驚きました。チョット工夫すればもっと使いやすくなるのですね。(健常者40代・女)

★何げなく利用している自動販売機ですが、障害者の立場からはいろんな問題をかかえていることが痛いほどわかりました。この貴重な意見を「季刊わたぼうし」の中にとどめず、みんなの力で光をあてることはできないでしょうか。(健常者40代・女)

★何一つとして、障害者に使いやすいか、どうかを考えながら作られた機械はないのだと思いました。読ませていただいて初めてわかることばかりでした。(障害者30代・女)

★以前より視覚障害を持っておられる方と自動販売機について考えたことはありましたが、このように具体化して考えておらず、ハハ～アンと思いました。(健常者20代・女)

★障害を持つ方々のための設備・工夫がいたるところで設けられるようになってきました。しかし、今回の自動販売機に関する意見を読んでみて、まだまだ障害者にとって社会は狭いなあ〜と実感しました。今後、障害者がもっと安心して参加できる社会、街づくりを望んでやみません。(健常者30代・男)

★自販機に対するいろんなご意見がありますが、自販機の業者に「季刊わたぼうし」を読んでもらうつもりはないのですか?(障害者40代・男)

★お金の投入口のことはその通りだと思いました。

自販機には各種各様ありますが、飲料自販機に限って申しますと、コーヒ飲料は絵が書いてありますからわかりますが、炭酸飲料、果汁飲料、お茶飲料は、精神薄弱者にとって買って初めてわかります。「からい」「スッパイ」と拒否されてしまい、結局お茶飲料が目的だったようです。炭酸飲料、果汁飲料は色で区別しわかりやすくしたらよいと思います。(健常者60代・男)

## 福祉もの知り博士 道路及び交通安全施設

読者の皆さん、コンニチハ、いよいよ「ほほえみの石川大会」が近づいてきたね。今回より障害者の日常生活にかかわることにおいて講義を行う。第一回目は「道路及び交通安全施設」である。

道路に関して講じられてきた施策としては、障害者の利用の便を考慮した歩道等の段の適切な切り下げ、視覚障害者用の誘導ブロックの設置、斜路式立体横断の設備がある。このような道路構造の改善のほか、特に盲人の歩行の安全を確保するため、道路交通法上に白杖を携え又は盲導犬を連れて通行すべきことを規定するとともに、信号機への視覚障害者用付加装置の設置が進められてきた。

また、身体障害者の運転免許取得のニーズが高いことから、自動車改造助成や自動車操作訓練事業が福祉サービスの一環として行われる一方、指定自動車教習所における持ち込み車両による教習実施及び身体障害者用の車両の整備、運転免許試験場における持ち込み車両による試験実施及び身体障害者用の車両の整備が図られてきている。あわせて、障害者の利用する自動車についての駐車禁止除外標章の交付、駐車スペースの確保が行われている。

次回は「公共交通機関について」講義を行う予定である。さあ一秋だよ。おいしいものをたくさん食べましょう。

(参考文献・介護福祉士養成講座「障害者福祉論」・中央法規出版)

## 我が家のペット大集合

～ケロちゃん登場～

地域住民

私のじいちゃんの家には犬がいます。おもしろいのは、名前がケロといます。とてもかわいいしば犬です。

私と弟がじいちゃんのところへ行くと、喜んで高さ1メートル程飛び上がって、しまいにはおしっこをこぼしたりすることがあります。

散歩に連れて行ったりすると、あっちに行ったり、こっちに来たりするので、忙しい柴犬です。だけど私はケロが好きです。何も芸はしないけれど、よく人が可愛がるのです。じいちゃんの友だちが来てもすぐわかるのです。

毎日でもケロと遊びたいのですが、勉強がありますし、じいちゃんの所まで少し遠いのであまりいけません。今度、行くときにはケロの好きな犬の缶詰もって行きたいと思っています。

### ペット大募集中＝

このコーナーに登場してくれるあなたの家のアイドルを広く募集しています。

変わった特技、性格を持っているペットがいましたら、このコーナーに紹介して下さい。写真を添えて下さいね。

## 「ほほえみの石川大会」開催記念特集

車いすバスケットを観戦して

病院・作業療法士

先日、といっても、もうかなり前になってしまうが、たまたま5月26日に身体障害者団体「ほほえみの石川大会リハースル大会」が開催されている場に居合わせ、車いすバスケットボールを観戦する機会を得た。

今まで車いすバスケットのことは知っていたし、石川県にもチームがあることも知っていたが、実際に試合を見たこともなく、正直言って、あえて見に行こうという気にもならなかった。私自身、スポーツは何でも見るのも自分でプレーするのも大好きで、バカみたいに感動し涙ぐむこともよくある。(人前では泣きませんが……)そして、今回この車いすバスケットにも同様の感動を覚えるのは言うまでもない。

ルールには多少の違いはあるものの、コートの高さ、ゴールの高さ、他ほとんどバスケットボールと同様である。車いすでどれだけスピーディにゲームができるのか?なんて愚問である。車いすの操作は日ごろ脳卒中の片麻痺患者と接することの多い私には、想像を絶するものがあり、思わず“すご-い=”と叫ばずにはいられず、白熱した試合には、当然転倒はつきもので、多く見られたが、起き上がりの速やかさには目を見張るものがあった。これだけになるのに、どれぐらい努力したのか考えると胸が熱くなった。そして、機会があれば家にこもっている障害者の人に見せて「みんな頑張ってるんや～」と気合いを入れてやりたい衝動にかられたのは私だけでしょうか。

決勝で惜しくも敗れたチームの選手に、たまたまトイレで出会い、思わず「良い試合でしたね。残念でしたね」と声をかけたら「ありがとう、今度は頑張りますよ」と笑顔で応えてくれた。スポーツに勝負はつきものであるが、こんなさわやかな気持ちにしてくれたのはスポーツの良さだと思った。

皆さんも、是非一度、車いすバスケットを観戦してみたいはいかがですか？

## リハーサル大会レポート      聴覚障害・会社員

5月26日の、朝7時30分ころに金沢西部緑地公園の駐車場に車をとめて、選手集合地の補助陸上競技場へ行きました。

会場には「ほほえみの石川大会」ののぼりがたくさん立てられて、各地からマイクロバスが次々と到着して、大会の雰囲気盛り上がっていくのが感じられました。

9時30分から、選手団の入場行進が始まりましたが、何かしら照れくさい思いでした。スタンドは、約2,000人ぐらいの観客で埋まっていました。

会場のあちこちで手話コンパニオンの姿がよく見られ、開会式の挨拶や進行などが手話で伝えられて、よく理解できました。

競技は11時10分から陸上競技場の各コーナーで一斉に開始され、私は聴覚障害の砲丸投げに出場しました。出場選手は1,2,3組みの合わせて20名ぐらいでしたが、トップの成績(8位24)で金メダルを獲得しました。陸上競技で表彰台に立ったのは生まれて初めてで、とても照れくさい思いで金メダルを首にかけて受け取りました。

学生のころは肩が強かったのが自身があったのですが、30年たった今も運動カンが衰えず、目標にしていた8メートルを越えたのでうれしかったです。ろうあの友人たちは私の成績に驚いて「10月の本番でもいけるゾ」と言ってくれました。10月の本番が楽しみです。もっと頑張るつもりです。

## 「ほほえみの石川大会」出場選手・S.Hさんにインタビュー

インタビュー者：「季刊わたぼうし」編集委員2名  
平成3年6月22日(土)「青山彩光苑」にて

5月26日(日)に開催された「ほほえみの石川大会リハーサル大会」に、石川県七尾市にある「青山彩光苑」に入所している重度の脳性小児マヒのS.Hさんが電動車いす部門に出場されました。今回、10月に開催される「ほほえみの石川大会」に初の電動車いす部門の石川県選手団として出場が決定されました。

**Q. 石川県選手団の中から電動車いす部門で初めて全国大会に出場される決定を聞いたときの気持ちは？**

A. 自分でも驚きました。まさか、初めて県大会に出場して全国大会に出場できるとは思っていませんでしたから。たぶん、電動車いすの選手が少なかったから私にチャンスがめぐってきたのだと思います。

また、今後も電動車いすの出場希望者が増えると思います。現にリハーサル大会の時に「来年は電動車いすで出場したい」と言っておられる方がたくさんいましたよ。

**Q. 5月に行われた「ほほえみの石川大会リハーサル大会」に出場された種目は？**

A. 「電動車いすでの30メートル走」と「スラローム」2種目でした。初めての経験でしたので、とても緊張しました。

**Q. 10月の「ほほえみの石川大会」に出場される種目は？**

A. 私の出場する種目は、「電動車いすでの30メートル走」と大豆の入った12cm×12cmの袋を投げる「ビーンバック投げ」の2種目です。

**Q. いつ頃から電動車いすに乗るようになったのですか？**

A. 去年の秋頃から乗るようになったのです。それがキッカケで、今年2月頃より指導員の方から「5月のリハーサル大会に電動車いすの種目があるから出場してみないか」という話があり、出場をしたら全国大会への夢がかなったのです。

**Q. 競技の成績の方はどのあたりを目指しておられますか？**

A. 一生に一度のチャンスですから、成績のことは考えずに精一杯やるつもりです。できれば金メダルを目指しています。

**Q. 今度の大会で何を楽しみにしていますか？**

A. 全国の仲間といろいろと会話を楽しんだり、町へ出歩いてショッピングやおいしいものを食べることを楽しみにしています。

**Q. これからはどのような練習をしますか？**



A. 青山彩光苑の中庭で自分なりにプログラムを組んでできるだけ、上位に入賞できるように頑張って練習をします。

Q. 石川県から電動車いすの人は2人出場しますが、競技そのものは障害区分が細かいので、その点ではどのような人と競技をするかわかりませんが、石川県の代表として、また「青山彩光苑」の代表として頑張ってきて下さい。

A. 頑張ってきます。一生の思い出を作ってきたと思っています。

## 「季刊わたぼうし」パソコン交流広場

(株)NTTのネットフレンディ金沢 アクセス電話番号(0762)21-9800

久しぶりの志門です

志門さんより受信

「季刊わたぼうし」ボードの開設で活気づいてきて今後が楽しみです。若手の障害者の活躍の場に大いに発展していけたら良いですねえ。

ローカルな話題とともに全国的視野、しいては国際というか人類的視野から福祉・ボランティアが論じられることがこのメンバー拡大につながるのではないかな?今後とも仲良くボードやオフラインミーティングでお付き合いをお願いします。

よろしく願います

たつぼさんより受信

七尾城さん、ぜんちゃん、始めまして!私は「たつぼ」というハンドル名でパソコン通信をやっている者です。

「ほほえみの石川大会」ではパソコン通信情報サービスのボランティアリーダー役をやります。福祉的にパソコン通信というものの可能性を常に考えている者でして、まだまだ勉強不足なのですが、これから一緒にやっていきましょう。

「わたぼうし」はもちろん私も協力させて下さいね、では、今日の所はご挨拶まで。

私のパソコン通信を始めたキッカケ 地域住民

(パソコン通信によって受信・会社員)

私がパソコン通信を始めたキッカケは、やはり、自分が「難聴」という障害を持っているからです。

というのは、電話が原因なのです。実は種類にもよりますが、親しい方であればある程度のはできたんですが、耳を酷使すると聴力が著しく落ちることがあります。ですから、友人たちから電話がかかってくる度に「せめて文字になれば……」と、情けないことをよく思っていました。

ある日、小学校時代からの友人からよく電話があり、たまたま私の耳が疲れから聴力が落ちていたために、なんと3時間もかかったことがあります。その友人の声がまったくといって良い程、聞こえなかったのです。しかし、一回だけでなく、こんなことが何度も何度もありました。

そのときにはパソコン通信の存在を知りませんでしたので、友人に対して申し訳ない気持ちから、なんとかしなくてはと焦る毎日でした。しかし、毎日のように電話がかかってくるので、「電話嫌い」になってしまい、とうとう友人から絶交を言い渡されてしまいました。

私には悲しいできごととして今も鮮明に覚えています。そんなときに仕事の関係上、パソコンをいじる羽目になり、私の頭に「パソコンと電話を繋いだら面白いのでは……」とふと思いついたのですが、誰に相談して良いのかがわからないまま年月が流れて行きました。

そして、とうとうある日、新聞でもう既に「パソコン通信」という存在があるということを知りました。喜ぶと同時に私の情報不足に凄いショックを受けたのを今も覚えています。それで、早速入会させてもらった次第です。お陰様で、私の人生は大袈裟な言い方かも知れませんが、180度回転しました。ーネモフィラー

#### 私も「ほほえみネット」にアクセス

#### 殿下さんより受信

私も「ほほえみネット」にアクセスしてIDをいただきました。IDはHT006です。なおNIFTY-SERVEのFHANDにも「ほほえみの国体」ボードがオープンしてしまっていて、こっちにも常駐していようと思っています。

では、よろしく!ここのボードには久々の登場の殿下でした!私にできることがあったら言いつけて下さいね!

#### はじめまして!

#### SHIBAさんより受信

私のハンドル名は「SHIBA」です。北海道からアクセスしています。

今まで僕は会社に入って6カ所も転勤しています。そのうち3カ所で手話の会会員でした。全然と言って良いほど手話表現はできないのですが、その代わりに手話の会の役員を2年ほどやりました。

なぜ!健常者もろうあ者も自分に欠けているいろいろな面を共に補い合って生きていく……。そのための一手段として手話を学習しています。福祉におけるボランティアは、本来あってはなりません。その内容は国か市が行政(福祉)の中で行うべきものです。

ボランティアという手話表現が「支援・援助」という手話表現から「共に歩む」という手話表現に代わったのは、国際障害者年にアイ・ラブパンフが出版された年ぐらいだったと思いますが、この表現なら、ボランティアという言葉が受け入れることができます。

こんな考えを持った「名寄手話の会」に入っていましたので、いまだに例会の参加が少なく、手話表現があまりできなくても、自然に無理をしないで、手話を続けてきたのだろうと思っています。これからは、北海道の情報もできる限りアップロードしたいと考えていますので、よろしくお願いします。

#### ネット開局の案内

#### ほほえみネットの開局にあたって

第27回全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」(10月26日~27日)の情報はじめ、大会当日は競技結果や出場選手のインタビューをパソコン通信でリアルタイムに全国に発信する大会史上初のパソコン通信情報サービスをする「ほほえみネット」が開

局しました。

パソコン通信は音を必要としないため、聴覚障害者の方や漢字読み出し音声変換装置や自動点字プリントを利用した視力障害者の方など障害を超えたコミュニケーションが広まってきました。そこで、ヒューマン・コミュニケーションの「友情の輪」が一層広がることを願ってこの「ふれあいボード」にも皆様のアクセスをお待ちしております。

SYSOP：井上 亜陀

SIGOP：たつぼ

アクセス番号：(0762)60-5500

運用期間：平成3年8月9日~11月15日

運営時間：24時間

回線数：4回線

大会本番中は5,6回線

プロトコル：N81XN1200bps

入会方法：HTGUESTで入ってメールで申し込みできます。

サービス内容：競技結果、選手、応援団コメント、ふれあいボード等

(ほほえみネット「ふれあいボード」より転載)

## みんなの広場

### 今年の石川の「ひまわり号」

自営業・「ひまわり号」実行委員)

上野~日光間を走ってから10年目、私たちの「石川のひまわり号」が走り出してから7年目、いつでも、だれでも、どこへでも、安心して利用できる交通機関を=と「ひまわり号」が走り続けています。

しかし、私たち実行委員は、なかなかその目的に達することは、終わりのない旅みたいに思えます。ただ、障害を持った人たちとそのことを理解し、応援してくれる人たちで旅をしていることに終始している状態です。

でも、その一日を確かな一日として思い出に刻み「楽しかったわ、また会いたいね、また行きたいね」といった言葉に、私たち実行委員は毎年、「ひまわり号」を走らせているように思います。

でも、私たちはいろんなジレンマに悩み、相談し合って、走らせていることが、たとえ目的に少し合っていないなくても、自由に旅に出られない人たちと旅することも、大切なことなのではと思います。

でも、そのことからいろいろな問題を見つけ、気がつくことも一つの「ひまわり号」の目的なのかも知れません。長く走り続けることによって、もっと、もっと「ひまわり号の運動」を世間に知ってもらわなければならないと思います。

ことしの石川の「ひまわり号」は8月4日に高松町にぶどう狩りを行いました。また、11月2日~4日に東京行きを計画しております。東京へは「ひまわり号10周年の祭典」に参

加することに意義があると思います。全国から「ひまわり号」にたずさわる人たちが一堂に集まることは、幅の広い運動に拍車をかける導火線になればと期待して準備を進めております。

飛行機に乗ってみたい、ディズニーランドに行ってみたい、そんな人たちの願いも叶えられるチャンスでもあることしの「ひまわり号」です。

## ひまわり号って何？

## 地域住民・(会社員)

車いすの通れない改札口、階段が多く、障害者が使えるトイレのない駅や列車の構造などで、障害者が自由に旅ができないのが現状です。「列車に乗ってみたい」「旅をしたい」という障害者の切実な願を実現させようというのがこの運動の始まりでした。1982年11月3日、日本で初めての「障害者列車ひまわり号」が上野(東京)~日光(栃木県)間を走り大きな反響を呼んだのを皮切りに翌年の1983年11月3日には、全国9カ所で乗せて9本の「ひまわり号」が走りました。

その後、年々「障害者列車ひまわり号」は広がり、1990年には1都1道2府29県で67本約35,000人を乗せて走るまでに広がっています。それぞれの「ひまわり号」の出発地や目的地の駅や都市で、「ひまわり号」が走ったことをキッカケに障害者の利用できるトイレの設置や、スロープ、改札口の改造等が行われた所もありました。

「障害者の要求実現」から出発した「ひまわり号」の運動が、「障害者を含めたすべての人が、いつでも、どこへでも、安心して利用できる交通のしくみと、安心して暮らせる街づくり」を目指す運動へと発展してきています。

## ぶどう狩りの報告

## 地域住民・(会社員)

さる、8月4日に行われた、ミニひまわり号「高松ぶどう狩り」の報告をします。朝は生憎の雨模様でしたが、横山駅に着くころには青空が見える遠足には絶好の天気となりました。私はカメラバックを肩に掛け集合場所である金沢駅の西口ホールに行きました。

簡単なオープニングセレモニーも終わりホームに移動しましたが、エスカレータを利用して車いすの人をホームまで移動するには、驚きました。(ナイスアイデア!)

電車に乗り込みしばらくして横山駅に向けて動き出しました。電車の中ではあっちこっちで賑やかになりました。私はたまたま同席となった、Sさん親子(父親と娘2人)といろいろな話をしました。最初は仕事のことから横山駅に着く頃にはボランティアのことについて話し合いました。

横山駅に着いてまず、車いすの人を歩道橋まで持ち上げなければなりません。歩道橋の幅は狭くて運びにくい、男性が少ないので負担が大きかったけどなんとか無事に運ぶことができました。徒歩で15分ほどでぶどう園に着き、私は2人のサポートをすることになりました。自分なりに頑張ったつもりですが、まだまだサポートしきれなかったが……。

ぶどう園ではぶどう狩りだけでなく、いろいろなことが行われました。まず、「ぶどうクイズ」ぶどうに関するおもしろ豆知識などが○×形式で答えるというもの。(ちなみに私は第2問目でボツった)もう一つは、(大声コンテスト)でした。出場者は日頃の自慢の大声(?!)を発揮していました。まあ、こんなふう楽しく過ごしたわけです。

帰りの頃にはかなりの人と親しくなれました。特にある人からおじいちゃんそっくりと言われたり、(俺そんなに老けてないよ)お互いに写真を撮りあったりしました。東京行きの時はよろしく願います。

## 「青山彩光苑」の身体障害者デイ・サービス

4月から石川県七尾市にある身体障害者更生援護施設「青山彩光苑」において、石川県内の身体障害者施設では初めての試みとしてデイ・サービスが行われています。

昨年の秋に試験的に実施し、ことしの4月から火曜と金曜の週2回七尾市内の在宅障害者を対象に本格的に実施しています。参加者は現在のところ脳血管障害による後遺症者で、普段は在宅生活をしている方々です。

施設の車で送迎が行われ「機能訓練」、おしくらまんじゅう、風船バレーボールなどの「レクリエーション」や入所者との昼食、語り、入浴などを実施しております。

現在のところ、参加される方も限られていますが、このようなサービスが広まることを望んでやみません。ここにそのスナップ写真を載せてみました。

連絡先：石川県七尾市青山町ろ部22番  
青山彩光苑 ☎(0767)57-3309

## 本の紹介

### あすを拓く心身障害者とともに

NHK大阪放送局 「心身障害者とともに」グループ編

日本放送出版協会 定価1,500円

毎週日曜日の午後7時からラジオ第2放送で「心身障害者とともに」という番組が放送されているのを知っている人は、あまり多くないようである。本書の「まえがき」にも、「率直に言って、この番組の知名度は、そう高くありません。」と書いてある。まことに「放送だけではもったいない」のである。

本書は、製作スタッフが全国を回り、障害者の生の声を収録し、電波に乗せた1400本の番組のわずか100分の1程度しかない。本書が、このすばらしいラジオ番組と出会うキッカケになってほしいと心から思う。(NHK社会福祉セミナーテキストより)

## パソコン通信ネット変更について

前号で「LIFENET金沢」にこの「季刊わたぼうし」のボードができましたことを紹介しましたが、オペレータさんの都合上維持ができなくなりました。

その後、皆様のご好意によりNTTの「ネットフrenディ金沢」の『B;22;4ボード』は季刊わたぼうしの読み込みができ、『B;22;2ボード』は『B;22;4-ボード』を読んだご感想やご意見を書き込みができるように作っていただき、7月20日にスタートしました。

このネットには、2000人以上の会員がおり、将来的にはPC-VANなどの全国ネットに載せることによって、全国の障害者の仲間と皆さんが交流できるようなボードにしていくことも計画しております。それに伴い、皆様のご期待に添えるような内容の濃い紙面作りを目指しております。

アクセス番号は(0762)21-9800 (0762)21-9801の2本8回線に対応しています。

## 編集後記

今年の夏はあったのでしょうか。梅雨が明けても曇りがちな日々が続いていました。やっと晴れたと思ったら秋の風が吹いていました。だが、9月に入ってから異常な暑さ。

農作物のでき具合は最悪、夏の商売も最悪でしたが、皆様にとりましてはことしの夏はいかがでしたか？

さあ、「ほほえみの石川大会」までもうすぐですね。大会の2日間は秋晴れのもとで行われることを祈っています。(Z.O)

## ほほえみの石川大会

### 第27回全国身体障害者スポーツ大会

日程：10月26日(土)~10月27日(日)

ほほえみに 広がる友情 わく力

開催地：石川県金沢市・松任市

25号テーマは 障害者の結婚生活